

トタウン・フェスティバルで上演した。彼自身の台本と歌詞で、演出も主役も兼ねている。

今や彼は四十代半ばの、最も油の乗り切った状態にあるようだ。

## 「フィフス・ビジネス」の著者

# ロバートソン・デイヴィス

その著書と同様に有名な、深遠で複雑な、ドラマティックな人物であるロバートソン・デイヴィスには二十篇をこえる小説——その中にはあの偉大なる三部作「フィフス・ビジネス」「ザ・マンティコア」「ワールド・オブ・ワンダーズ」が含まれている——のほか、戯曲やエッセイも多い。彼はまたトロント大学のマッセイ・カレッジの学監でもある。

彼は余技的な著作の一つで、悩める者たちに対する根本的な救済を説いている。本の名前は即ち、「サミュエル・マーチバンクスの年鑑 占星学的・霊感的便覧——性格分析・魅力の秘訣・健康へのヒント・パーティで成功する法・身体上のホクロの位置による占い・その他若干の秘密情報を初公開——付録 魔術師マーチバンクスの書簡・随想・語録・独言など満載」という。以下、無限の多様性に満ちた警句のいくつかをこの「年鑑」から抜粋してお目にかけてよう。

「誠実さにも限度というものがある。さもないと、君の家は失なわれた大義のゴミ捨て場になるばかりか、手に負えない連中の避難場所になってしまうだろう。」

「知恵は変わりやすい持ち物だ。狂犬に追われれば誰でも賢く行動する。が狂った女に追いかけて無事なのはほんの少数者だし、気狂いじみた考えの前では、最高の知恵者だけが生きのびられる。」

「予言は、不可避の事実を不可能という恐るべき光に注意深くひたした上で、まっさきにそれを発表することによって成立する。」

「四十五歳以後の男と女の相違は、賢者と愚者、全体と断片、生存者と脱落者の違いにくらべると取るに足りない。」



Libby Joy

「それについて書かれた本の多さからみると、我々にとっては東洋人の姿勢や呼吸法を取り入れることによって彼らの精神的な偉大さに到達するのは簡単なことである。ところがおかしなことに、東洋人の方では誰一人、我々の姿勢や呼吸をまねることによって科学的、政治的技術を発展させることができるとは信じていないようだ。」

「勝っている時こそ最も注意すべきなのだ。なぜなら、君の方ではダウンしている相手をなぐりはしないが、相手の方はあわよくば君を蹴り上げてやろうと思っているに違いないからだ。」

## エスキモーの版画家

# ケノジュアク

ケノジュアクは、イヌイット（エスキモー）出身としては、最も賞賛された芸術家であろう。北西準州ケープ・ドーセットの、五十家族ほどしかない小さな村に住む彼女は、空想的なフクロウのグラフィック・イメージを得意とする版画家・彫刻家で、一九五〇年代末に創作を始めたばかりというのに、一九六〇年の作品「魅せられたフクロウ」で一躍世界的な名声を得た。

ケープ・ドーセットに版画を紹介したのは、日本で版画を学んだジェームズ・ヒューストン氏である。イヌイットの「版

画事始」について、ヒューストン氏はこう書いている（本紙第二三号）——。



ケープ・ドーセット住民の間で版画作りがはじまったのは、一九五九年の冬である。ある日のこと、私のそばに坐って、政府の砕氷船で運ばれてきた何箱かのタバコをじっと見ていた、オシャウィートックという名前の狩りのうまいエスキモーが尋ねた。

「それぞれの箱に、全く同じように小さく船乗りの頭の絵を描くのは、大変骨が折れるだろう」

「われわれは、そんなやり方はしないよ」と私は答え、エスキモー語で近代的な写植印刷の方法について説明しようとした。私の説明は、どうもうまくいかなかった。凹版印刷とか色刷りの重ね合わせ（見当）などを説明する適切なエスキモー語を私が知らなかったせいである。

（略）

印刷というものを実際にやって見せる方法はないかと、私はあたりを見回した。そのとき、オシャウィートックがしとめてきたアサラシの牙が目についた。オシ